

編輯室より

△……丸本構成を趣向の方向より研究、系統的な勞作を數多く發表されてゐる近石泰秋氏が今回「責の趣向」について更に廣汎な資料を基礎に同氏独自の研究を寄せられた義に本誌に發表された「心底の趣向」と共に併せ御高讀を願ふ。

△……「朝日文化賞」を授與された吉田榮三、吉田文五郎兩師に就て早大教授、同演劇博物館長河竹繁俊先生より玉稿を頂いた。朝日文化賞の意義と榮三、文五郎の藝を説いて餘すところがない、茲に深い謝意を表す。

△……「朝日文化賞」受賞記念の文樂座二月興行は榮三、文五郎で「千本櫻」道行に絢爛たる舞台を見せたが、途中文五郎が風邪の爲め休演、文樂の將來を考へ併せて寂寥を感じさせられたが、千秋榮直前廿二、廿三の兩日再出演、華やかな藝を見せてくれたことは榮三師の健在と共に同慶に堪えない。

△……本號には「菅原」の特附頁を作る豫定にて、既にその依頼によつて寄稿された方もあつたが、編者身邊の雜用に追はれて中途半端に終つたことを申譯なく思つてゐる。尙ほ村上安志氏から「映畫歌行燈と藝道插寫」を、吉永孝雄氏から「菅原初演當時の太夫、三味線、人形について」の玉稿を頂き乍ら紙面の都合上組みおきのまゝ次號に繰延べとなつたことを御詫びする。

淨瑠璃雜誌 第四百十七號

(昭和十八年三月合併號)
(毎月一回、二十日發行)

●本誌 第一部 金五十錢(送料四錢)
●定部 六部 金三圓(送料共)
●價 十二部 金六圓(送料共)

○御注文は一切前金の事
○雜誌發送を以て領收證に代ゆ
○外國送りは一冊に付郵税十錢を要す
○座久阪二三九二八番

○攝替は浪花名物淨瑠璃雜誌社。

廣告

普通	一行	金三十錢
一等	一行	金二十圓
二等	一行	金二十圓
三等	一行	金三十圓

○特等は一頁以下の需に應ぜず六回以上の特約には割引す
○製版を要する時は其賃費を申受く
○廣告料は總て前金の事
○一行九ポイント活字

發行所 樋口虎之助

印刷所 坂口秀吉

印刷所 高尾印刷所

發行所 淨瑠璃雜誌社

大阪市西區千本通二ノ三二
(西大 第四九〇)

森祐齋香鴻山野梅成中中辻武高太吉大林
同
田池本間本瀬野西部智安宰永西
信政秀
の善二幸修光重無孝太太
旺雄郎精武二辰信極一郎郎二江門雄孝雄